

IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ 金沢市各種団体SDGS取組促進に 向けた経営支援のための調査

国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット &
IMAGINA KANAZAWA 2030推進会議

目次

1. アンケート調査結果速報

- アンケート調査概要
- 回答者の属性
- 会員登録の目的
- パートナース事業による会員への効果
- パートナース運営状況に対する会員の評価
- プロジェクト形成において会員の抱える課題

2. その他の記述的統計情報

- パートナースの活用状況

3. 調査の限界

1. アンケート調査結果速報

アンケート調査概要

- 調査目的* : (1) IMAGINE KANAZAWA 2030パートナーズについて、**当初目的に対応する成果**を生み出すことができているか、確認する。また、それ以外に、成果に資すると想定される効果を上げることができているのか、確認する。
(2) ①パートナーズ運営機能、②コミュニティ/市場の状況、③パートナーシップ（取引）、④会員の組織能力の現況を確認し、課題点を抽出する。

*2023年2月10日運営メンバー説明資料より抜粋して改変

■ 実施期間 : 2023年3月29日（水）～4月11日（火）（合計2週間）

■ 調査手法 : オンラインアンケート調査（Google Form）

■ 調査対象 : IMAGINE KANAZAWA2030パートナーズ会員
合計235**会員（団体：209、個人：26）
**2023年3月29日現在

■ 想定回答者 : パートナーズ担当者

■ パートナーズ目的 : 金沢SDGs「5つの方向性」の実現を目指す企業、団体及び個人が会員同士の活発な交流を通じたパートナーシップにより、金沢ミライシナリオを実践することを目的とする。

回答者の属性

「中小・小規模企業」の回答が少なく「個人」の回答が多い

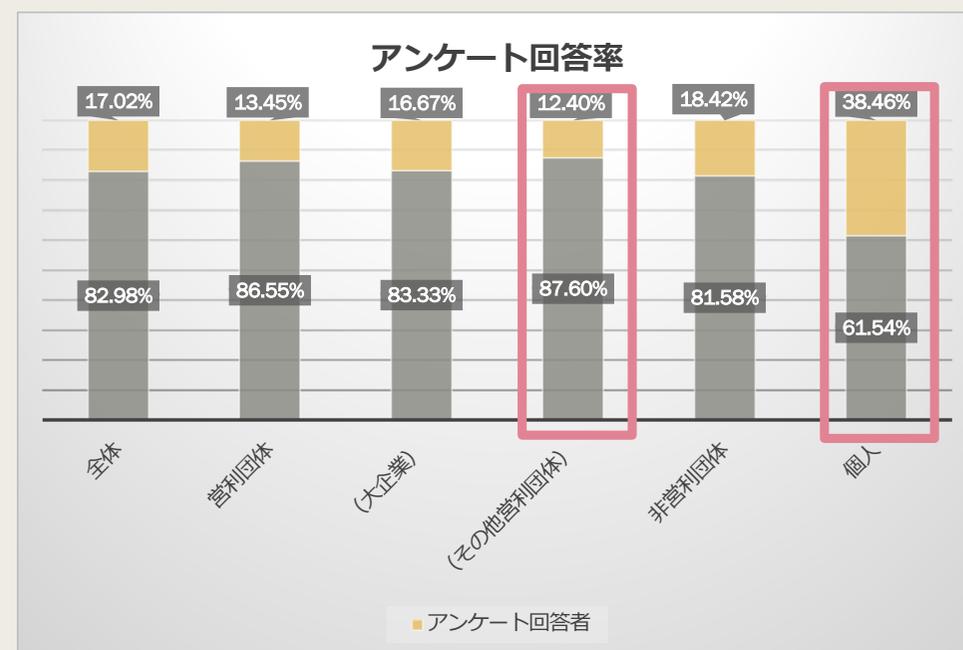
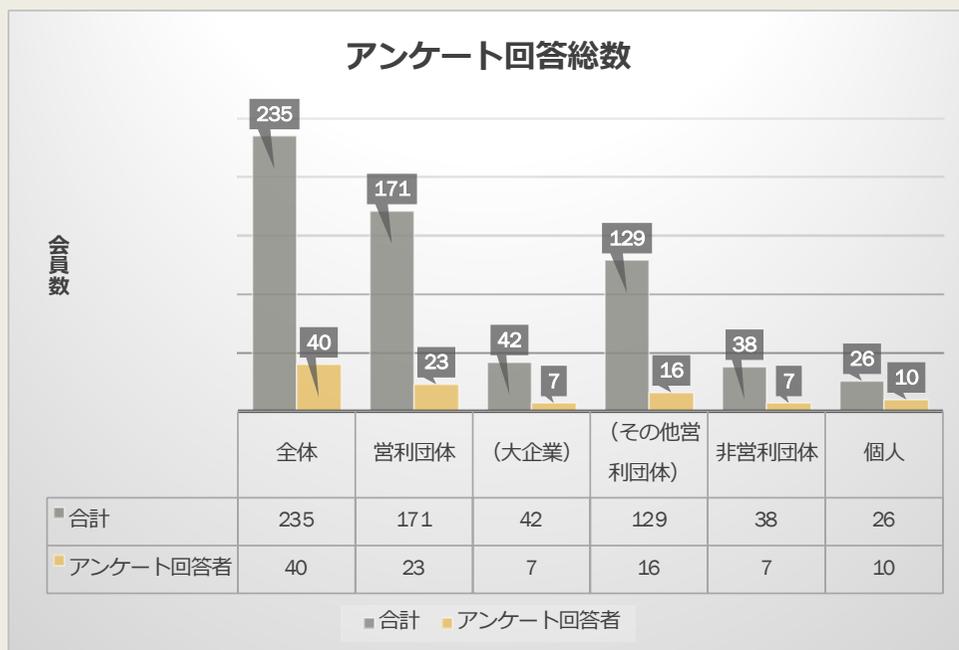


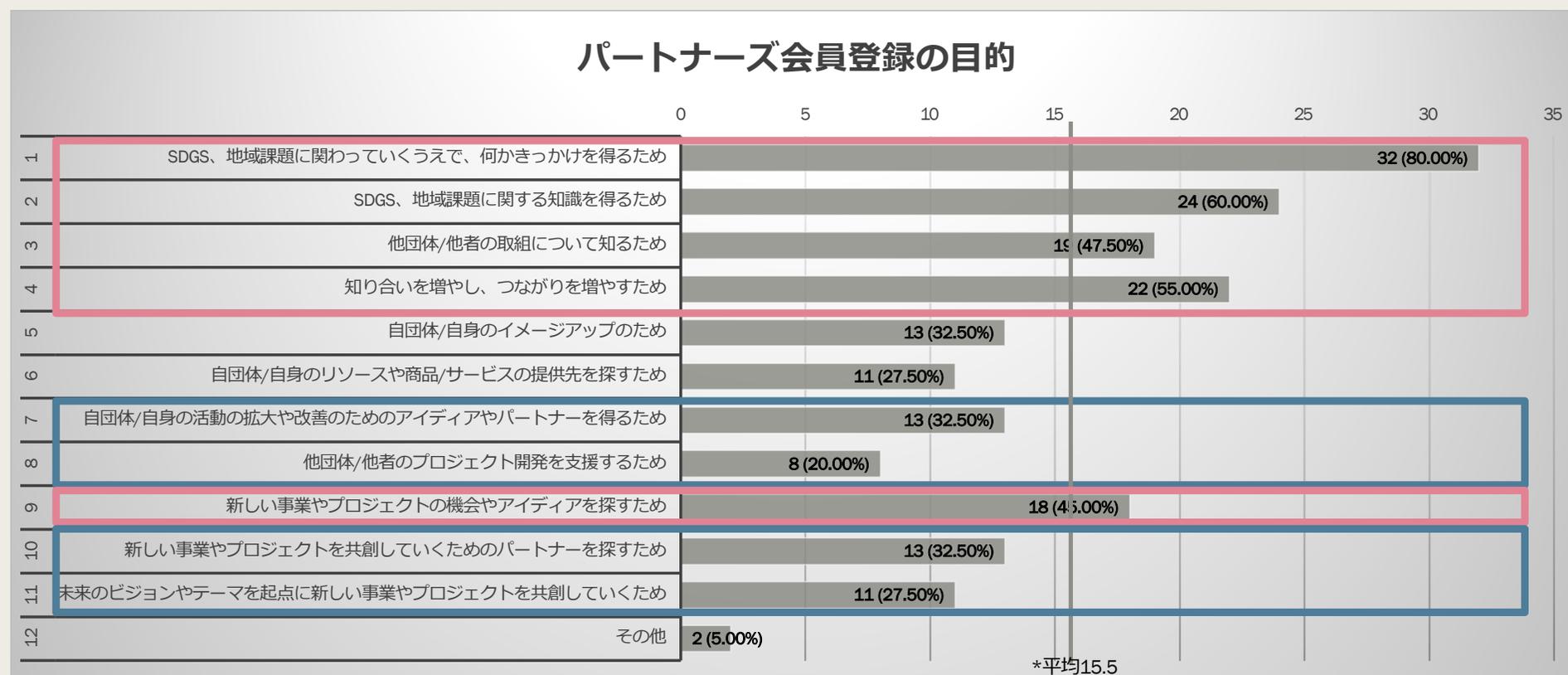
図. 属性別のアンケート回収率

	大企業	その他営利団体	非営利団体	個人
調整済標準化残差	(0.0675)	(2.0781)	0.2508	3.0846
P値	0.9462	0.0377**	0.8020	0.0020***

***有意1%水準、**有意5%水準

会員登録の目的（全体）

知識や情報、取組のきっかけや機会を探しており、明確な目的意識を持って積極的にプロジェクト形成を進める動機付けは弱いと推察



*回答総数40件

図. 属性別のアンケート回収総数

パートナーズ事業による会員への効果①

会員登録によりパートナーシップ促進に効果があったことが確認

- 少なくとも「会員登録手続き（活動内容や計画の申請書類作成）」を経て所属することで、全項目で改善しているが、相対的に、「知識」、「親近感」、「貢献意欲」、「活動イメージ」は大きく改善しているが、「ネットワーキング」、「活動時間」、「機会発見」、「スキル」は効果が小さい。
- 知識が増え、活動イメージが湧き、モチベーションが高まっているが、ネットワーク、機会、スキルが伴わず、具体的な活動を行いきれていない可能性が伺える。



*回答総数40件

国連大学サステナビリティ高等研究所の調査によるネットワーキング・ユニット

***優位1%水準

パートナーズ事業による会員への効果②

交流会に1回でも参加することで大きな改善効果がある可能性

- 交流会に1回でも参加することで全項目が改善する可能性があるが、「知識」、「親近感」、「貢献意欲」、「活動イメージ」は効果が大きい一方、「ネットワーキング」、「機会発見」、「スキル」は効果が小さい。
- 交流会が「ネットワーキング」、「機会発見」、「スキル」の改善に効果を発揮し切れず、期待外れ感を生み出している懸念がある。

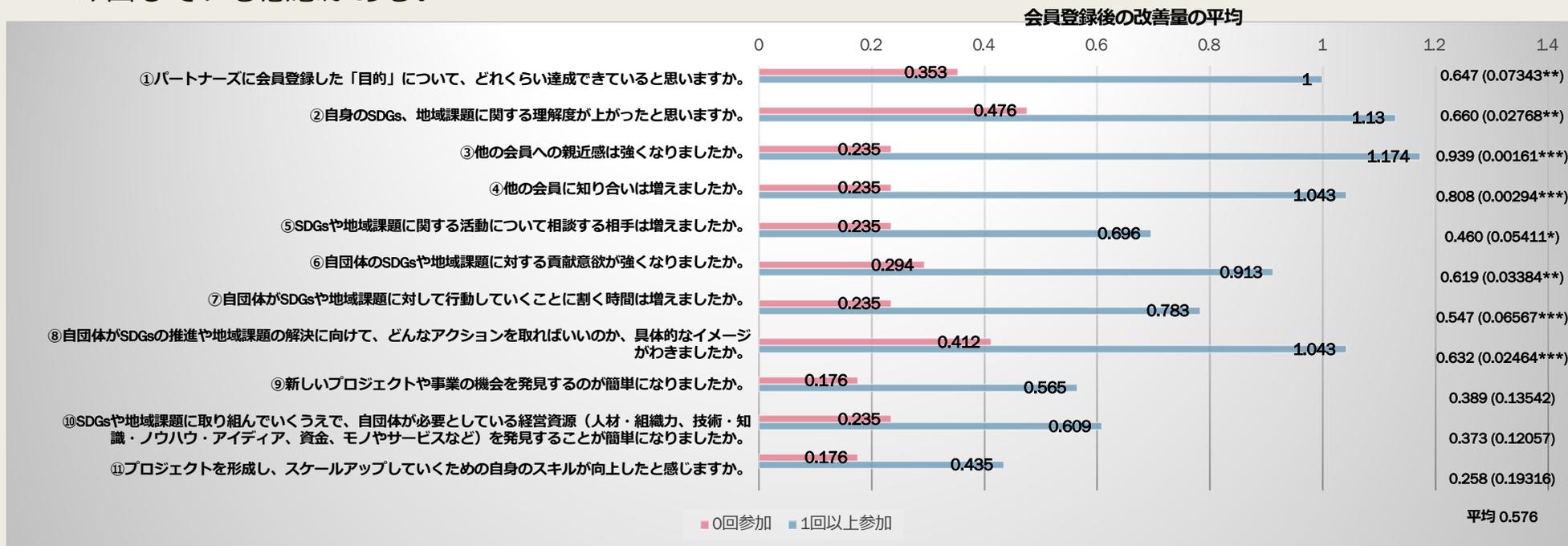


図. パートナーズ会員登録による効果の認識

***優位1%水準、**優位5%水準、*優位10%水準

*回答総数40件。「0回参加」総数17件、「1回以上参加」総数23件。

*介入群が25件未満のため参考情報扱い。

パートナーズ事業による会員への効果③

会員登録によりプロジェクト形成促進に効果がある可能性

- 総回答数の約半数の会員にプロジェクト形成の意志があり、更にその約半数が実際にプロジェクトを形成中、またはすでに実施済みであり、プロジェクト形成が進んでいる。
- 会員との協働よりも自団体/自身単独や非会員との協働プロジェクトを進める会員が多く、プラットフォーム内でのマッチングに課題がある可能性がある。

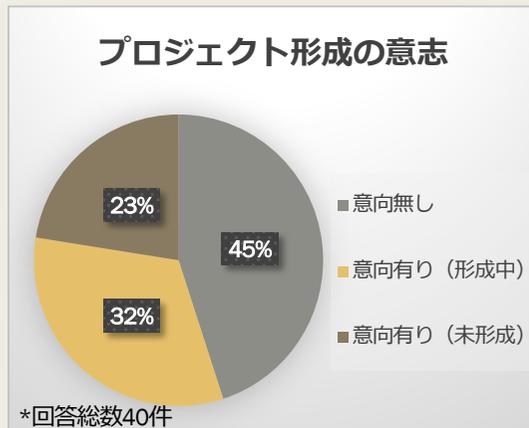


図. プロジェクト形成状況

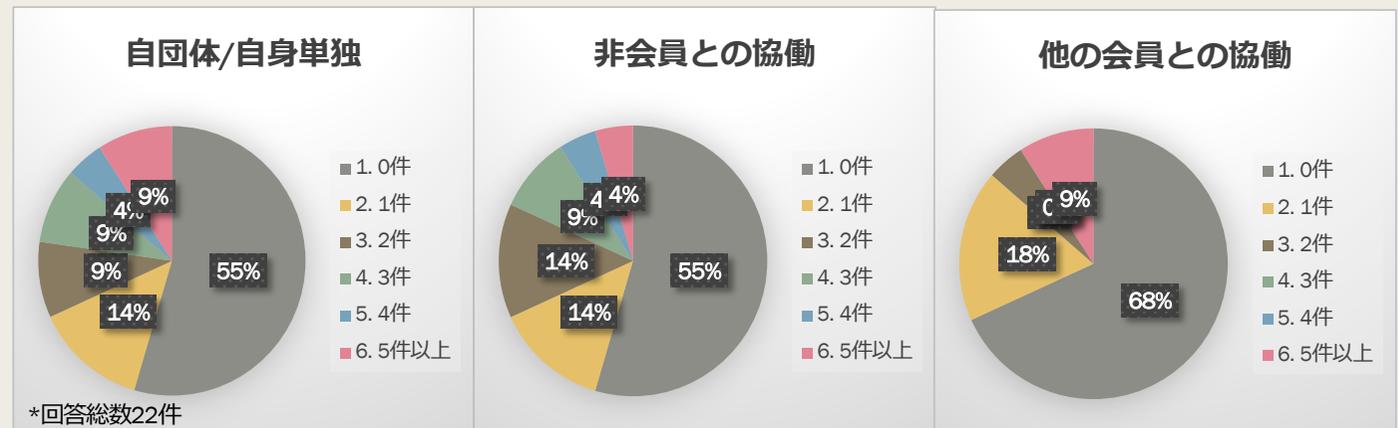


図. パートナーシップ形態別の形成状況

パートナーズ事業による会員への効果④

会員登録によりプロジェクト形成促進に効果がある可能性

- リスクが少なく、難易度や持続可能性が低く、インパクトが小さい「イベント」を実施する会員が多い可能性がある。一方で、「事業」より「商品/サービス」に取り組む会員が少ない可能性があり、組織設計に関わる技術的な要因など、背景が想定される。
- その他、円滑な信頼やパートナーシップ醸成、組織内部の集団意欲や団結への効果もあった。

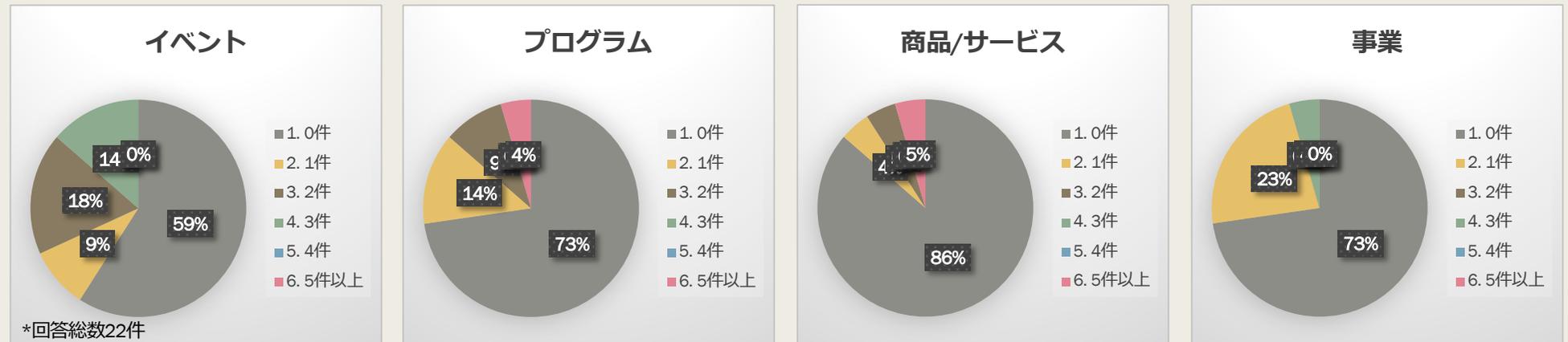


図. プロジェクト種類別の形成状況

表. その他の効果（アンケート自由記述）

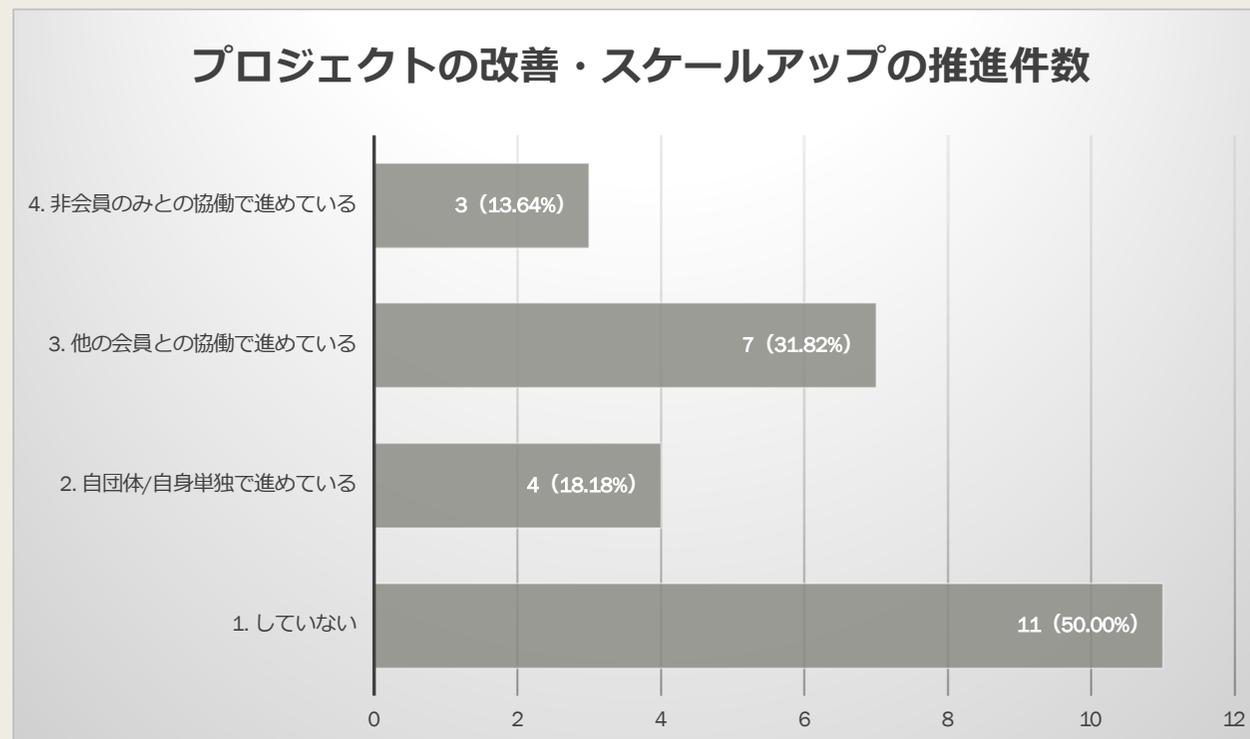
項目	回答
1 信頼・パートナーシップの醸成の円滑化	パートナーズ会員であることで、仕事の話が早く進むようになった。社会に理解してもらえやすくなった。
2 組織内部の貢献意欲増進や団結	地域貢献活動に参加する社員が増えてきた。

*回答総数22件

パートナーズ事業による会員への効果⑤

会員登録によりプロジェクト形成促進に効果がある可能性

- 新規プロジェクト形成の状況と同様、おおよそ半数の団体が改善やスケールアップを進めているが、新規プロジェクト形成とは異なり、他会員と協働している組織が多くなっている。



*回答総数22件

パートナーズ事業による会員への効果⑥

プロセスの初期段階が進んでいることが確認された

	インプット /リソース (活動主体 や媒体)	活動/施策	アウトプット	初期アウトカム (活動の結果による直接的な変化)	中間アウトカム (間接的な変化)	長期アウトカム (長いスパンで 起こる間接的な 変化)	インパクト (最終的な 結果)
1	金沢市	定期的な交流会	<ul style="list-style-type: none"> - メンバーの活動、プロジェクトや課題が参加者に共有される - メンバー間でネットワーキングし、情報交換する機会が設けられる 	<ul style="list-style-type: none"> - ネットワークを構築する - 知識や情報が共有される - アイディアが生まれ、共有される 	新しいプロジェクトが形成される	金沢ミライシナリオが実現する	SDGsを達成する
2	会員	オンラインでの発信/宣伝	<ul style="list-style-type: none"> - メンバーの組織情報、ビジョン、行動がオンラインで共有される 	<ul style="list-style-type: none"> - 知識や情報が共有される - お互いを知る 	プロジェクトがスケールアップする	地域課題に貢献する	持続可能な都市と未来を実現する
3	運営メンバー		<ul style="list-style-type: none"> - 取組開発は進められている一方、実績がどの程度生まれているかについて、確認はない 		プロジェクトの持続性が確保される		
4	JCI金沢						
5	OUIK						
6	ウェブサイト/SNS						

一般的には進みつつある状況

取組開発は進められている一方、実績がどの程度生まれているかについて、確認はない



現況では計測不能
(指標完成後に計測)

*津田により仮設定されたセオリーオブチェンジ (変化に向けた活動とそのプロセスの概念図)。セルの並びは必ずしも因果関係を示しているわけではないことに留意。

パートナーズ運営状況に対する会員の評価

交流会、知識・情報共有、運営全般のあり方に課題意識が強い

- 交流会の企画内容をテーマや対象を絞って開催するなど、交流会の企画を魅力的に工夫する。
- 交流会を定期的、かつ継続的に開催する。
- 各団体の取組や成果を交流会やメディアを通して共有・見える化して知識の展開と認知を高める。

表. パートナーズの運営や事業内容への改善点や期待（アンケート自由記述）

大分類	中分類	小分類	回答
サービス	交流会	企画内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ テーマ別（業界、課題、SDGs以外）や会員属性別でターゲットを絞った開催（県内企業、個人）（インバウンド・アウトバウンド型）（6）、アイデアソン（連携型）（1） ✓ 責任者クラスの会合（1）、総会の開催（1） ✓ より深く具体的で効果的な議論（2）、気軽な場づくり（個人）（3）、参加したくなる場づくり（日時、会場、企画内容）（3） 交流しやすい場づくり（1）
		開催頻度	✓ 継続・定期的な開催（4）
		参加人数	✓ 参加者層の拡大（年齢、業界、課題）（3）
	ネットワーキング・マッチング・パートナーシップ	✓ 会員ごとのモチベーションや目的の違いによる交流や議論の滞り（1）	
	知識・情報の共有・普及		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交流会・HP・会員ページでの他会員の取組/進捗/成果の報告・共有・見える化（5）、様々な情報・知識共有（2） ✓ 会員の事業・自己紹介の場（2） ✓ 講義・勉強会の開催（事例紹介、初心者・新入社員向け、国内外のトレンド）（3）
運営事務	マーケティング・アウトリーチ		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加者層の拡大（3）、認知度向上・発信（3）
戦略・計画			✓ 戦略的で効果的な運営体制と計画の整備と実行（1）、活動目的の明確化（1）
その他			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 推進力・アクセレレーター機能準備（ヒト、モノ、カネ）、（1）継続的運営（1）、運営内の交流の活性化（1） ✓ 地域から世界的課題への貢献（2）

*回答総数40件

プロジェクト形成において会員の抱える課題

プロジェクト開発の初期段階から出口まで状況に応じた支援が必要

- プロジェクトのフェーズ毎には「実証」フェーズ後の軌道に乗せるまでの「立ち上げ（運営体制の確立）」期、および、その後の「安定的なプロジェクトの継続」に課題意識が強いようである。
- 機能的側面においては「計画」、「資金調達」、「パートナー探索」において課題を感じている。
- そのほか、「人材」確保が課題であるほか「課題解決のスピード」や「本業との関連」が指摘されている。

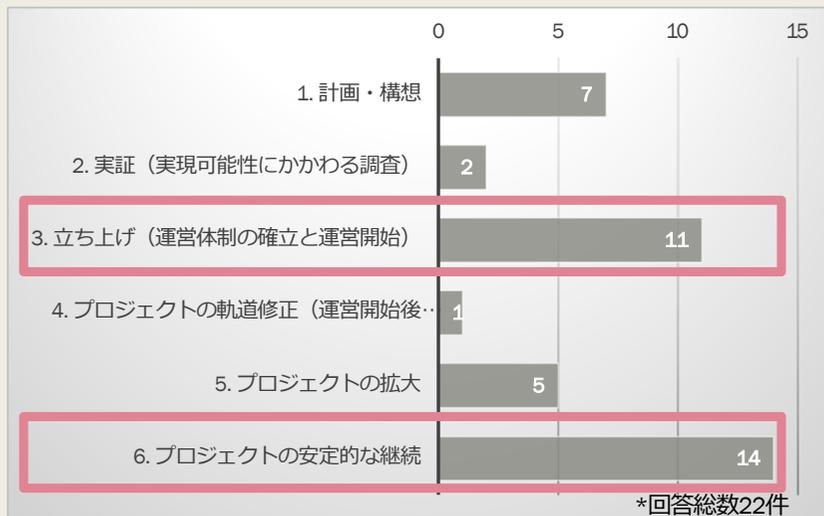


図. プロジェクトフェーズ毎の難易度

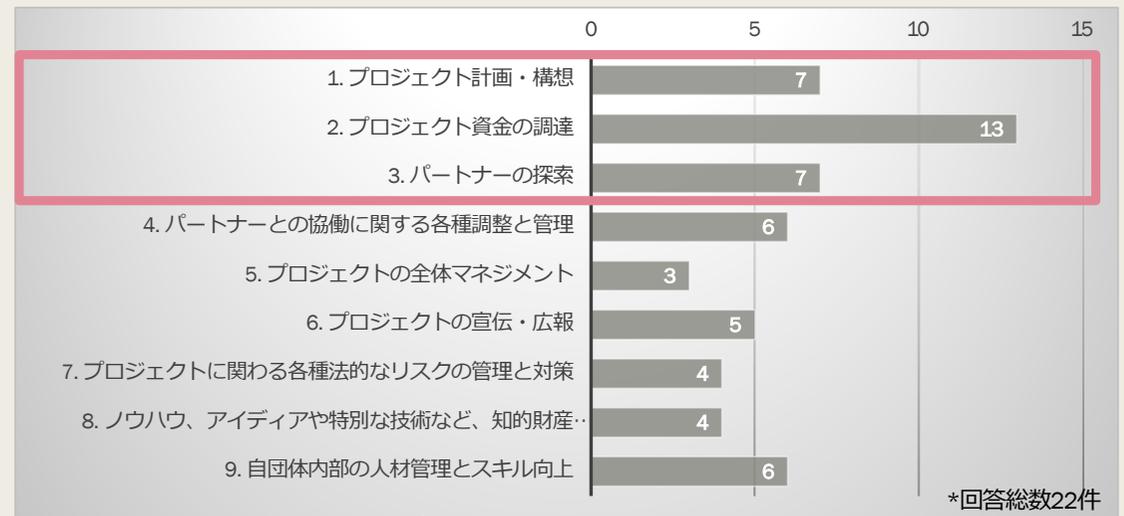


図. プロジェクト機能毎の難易度

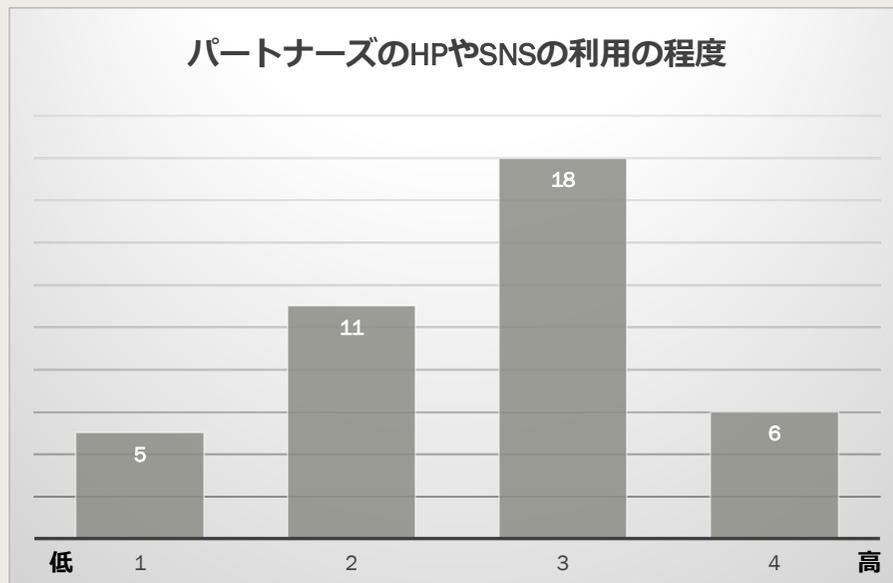
表. その他課題（アンケート自由記述）

項目	回答
組織能力	人員（教、地域課題担当、若手）（3）、人材・組織設計、財源（2）、パートナー探索（2）、課題解決のスピード、本業との関連性、経営体力（財務、人員）、知識・ノウハウ

2. その他の記述的統計情報

パートナーズの活用状況①

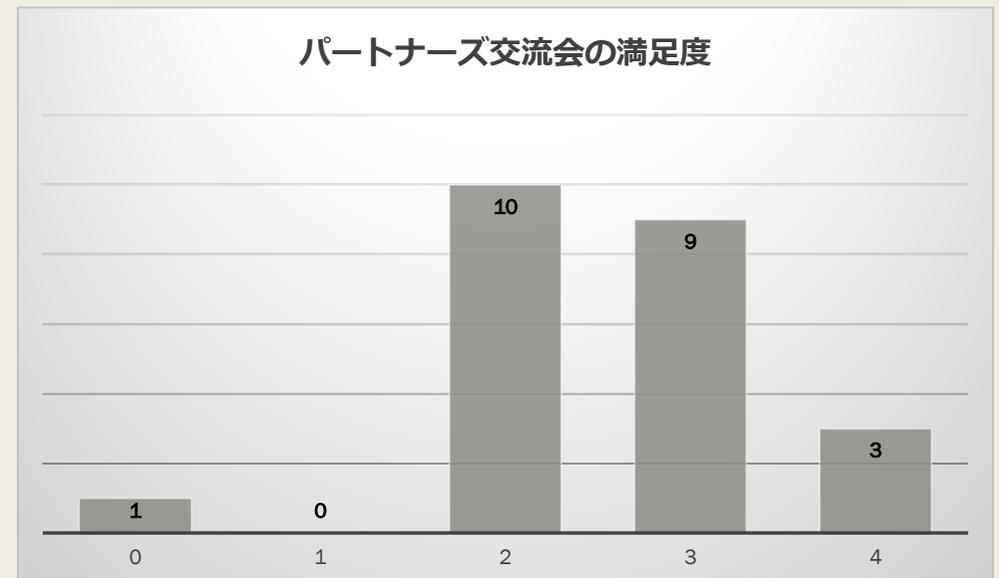
パートナーズのHPやSNSの利用の程度



*回答総数40件

*平均2.625、カイ二乗検定1.6 (n.s.)

パートナーズ交流会の満足度

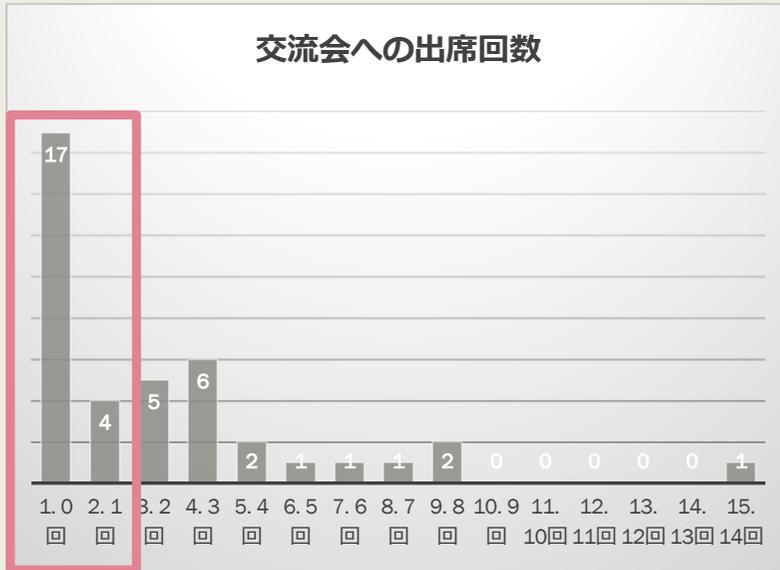


*回答総数23件 (交流会に1回以上参加)

*平均2.57

パートナーズの活用状況②

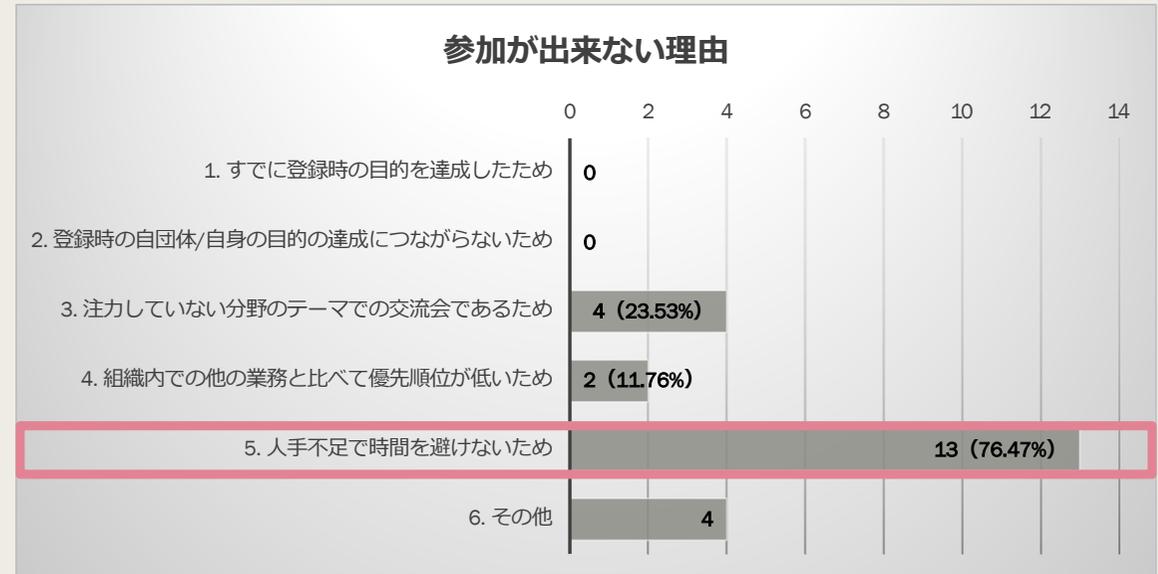
交流会への出席回数



*回答総数40件

*平均2.2回、中央値1回

参加が出来ない理由



*回答総数17件

注意

- アンケートの回答数の問題から、統計的妥当性を検証するうえで限界があり、記述統計結果から傾向や可能性を指摘するに留まる項目も複数存在する。
- IMAGINE KANAZAWA 2030パートナーズ開始前におけるデータや測定指標が存在していない。そのため、本調査では調査時点での調査対象者の認識を元にした事前事後調査を用いた評価分析を行っている。そのため、結果の客観性は、厳密には高いとは言えない。